



おお ुरあ やす のぶ

大浦康伸さん

●プロフィール

63歳。上対馬町河内出身、在住。上対馬高校在学中から軟式野球部でピッチャーとして活躍。就職した上対馬漁協では野球チームの牽引役となり、昭和52年高松宮賜杯全日本軟式野球大会で見事全国優勝を果たした。昭和61年には朝鮮海峡を七丁櫓地舟で横断する企画の火付け役となり、漕ぎ手の一員として参加した。現在、対馬観光物産協会上対馬支部部会長。奥様と、別棟に娘さん夫婦、二人のお孫さんと暮らしている。

○高松宮賜杯で全国優勝とは輝かしい成績ですね！

当時は対馬も野球がさかんで、上対馬町内だけでも5チームありました。全島でしたら学校や職域チームが50はあったでしょう。「あそこには負けんぞ」という職場の意地で、野球にも熱が入っていましたね。もちろん仕事も一生懸命でしたよ(笑)。全国優勝した当時、私は25歳。優勝まで15戦投げきりました。野球は、壮年野球を48歳の頃まで続け、オール上対馬チームで長崎県準優勝になりました。

○強さの秘訣は何でしょう？

良い人材が集まるだけではないで、やっぱりチームワークが良くないとね。仕事も効率よくこなし、練習も熱心に。試合はもちろん一生懸命。そして試合の後も一生懸命、勝つても負けても飲む(笑)。比田勝には料亭がありましたから、そこに上がっては歌って踊ってどんちゃん騒ぎ。でもね、そうならんと付き合いは深まらないですよ。もちろん今でもその頃の仲間とは繋がりが強いですね。

○現在は上対馬町の観光にもご尽力いただいていますか？

ひとつはたご祭りやもみじ祭

りを手がけていますが、天候に左右されたりボランティアスタッフがなかなか集まらず、運営も厳しいです。祭り会場に出店する業者も高齢化し、減っています。島外からの来客も多いので、対馬全体で盛り上げる方法が欲しいところです。

○町には活気が感じられますね。

韓国人観光客は切っても切り離せない存在です。日帰り客もいますが、滞在時間内にレンタカーやタクシーの利用者が増えましたし、ニーズに合わせたレンタサイクルや、バス輸送も増えています。昼食も飲食店やスパーを利用してくれます。宿泊施設が少ないですが、民宿が増えて宿泊客も少し増えていきます。港のターミナルがきれいになり、近く完成するのも期待材料の一つです。ただ、日本で屈指の乗降者の多い港なのに税関や検疫、入管の職員が常駐していないのは残念ですね。

○一過性の流行で終わらせないためには？

韓国人観光客にとって対馬は、空気がきれいで自然豊か、何もないけどそれを求めて来ているんです。美味しいものを食べさせて、みやげ品を揃えてあげ

ば買って帰ってくれます。対象となる相手に合わせてものを提供すれば、商機はあります。先方に行って好みを学んだり、ニーズを読むことが大切でしょう。○お孫さんと日ごろよく一緒にされるそうですね。

小学1年の男の子とは2歳の頃からバッティングやバトミントン、ゴルフもアイアンを体型に合わせて切ったものを使って遊ばせています。魚釣りも上手ですし、鳥の名前も鳴き声を聞けば答えられます。私は5人きょうだいでしたし、子どもだけで遊ぶのが普通でした。でも今は、河内地区には小学生が4人だけ。島には残ってほしいです。就職先や経済的な問題もあるでしょうが、知恵を出せばもっと良いものが生み出せると思うんです。島内外の観光物産に新しいアイデアを生み出すには、既存の殻を破らないと。原動力には若い世代が必要です。

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回の上対馬町大浦にお住まいの長谷川理子さんです。お楽しみに。